

## お茶の水女子大学における「魅力ある大学院教育イニシアティブ： 〈対話と深化〉の次世代女性リーダーの育成」事業の概要について

平成 17 年度実施責任者  
元人間文化研究科・国際日本学専攻長  
高島 元洋

本学の企画によるイニシアティブ事業の目的と必然性は、大学院教育の使命を「女性リーダーの育成」と位置付け、そのための教育研究の特徴を「学際性・国際性・将来性」におき、具体的な方針を「社会的ニーズを視野に入れ」ながら「基幹分野の充実、先端・創成分野の強化」することにあります。

これにしたがい平成 17 年度は、国際的な学術経験・視野・人脈を培うための教育プログラムとして、「国際的なジョイント教育」を推進しました。また、人文科学の学際性を強化するために、「副専攻制度」をカリキュラムとして立ち上げました。その端緒となるのが「男女共同参画リソース研究」と「文化マネジメント研究」です。

その結果として、当初想定していた以上の顕著な成果がありました。このことは本学だけではなく今後日本の高等教育を考えるうえで重要な指針となると思います。

### (1) 教育課程の編成について

副専攻のプログラムが提出され関連して新設科目が開講されました。これにより時代の要請に対応する学際的な研究を奨励することになります。また英語での論文発表・口頭発表のスキル・アップのために「英語アカデミック・プレゼンテーション」が開講されました。

### (2) 学生の研究活動の活性化状況

国際的なジョイント教育を、韓国の 2 大学（同徳女子大学校、淑明女子大学校）、国際的な共同シンポジウムの開催をフランスの 2 大学（コレージュ・ド・フランス、ブレーズ・パスカル大学）と連携して推進しました。学生にとって、海外で積極的に発表し学生同士と、また研究者と交流することは、たいへんな刺激的であり、論文執筆への動機付けを強化したといえます。

また、博士論文を執筆する学生を中心に、学生が海外において資料調査・文献調査する研究活動を応援しました（学生海外研修の実施）。このような事業は従来なく、これにより論文執筆を強力に支援したといえます。

### (3) 教育研究指導體制の改善状況

博士前期課程・後期課程を一貫教育とし、博士論文執筆への動機付けを強化するために、修士論文を中間論文とすることについては、今後具体的な検討を慎重におこなうことにしました。

副専攻（文化マネジメント研究、男女共同参画リソース研究）を中心とする研究活動を効果的に推進し、本事業に関連する研究支援体制を充実・強化しました。

### (4) 比較日本学研究センターの活動の充実

韓国におけるジョイント教育（同徳女子大学校、淑明女子大学校）、フランスにおける共同シンポジウムの開催（コレージュ・ド・フランス、ブレーズ・パスカル大学）を実現しました。

比較日本学コンソーシアムを構築するために、韓国・台湾・中国・英国・チェコから研究者を招聘し予備会議を開催しました。これにより海外の大学も本事業に強く期待していることを確認しました。

その他、本センターの本事業に関連する研究支援体制を充実・強化しました。